

優秀賞
(子どもの部)

「やなぎだくにおせんせいへ」

荒川区立第七峡田小学校一年

唐澤 禮歩

わたしは、ながーい5ふんみじかい5ふんを、よみました。このほんをえらんだわけは、えがきにいったからです。

このほんは、おとこのこが、いろいろな5ふんをたいけんしていく、おはなしです。

わたしがこころにのこったところは、おとなの5ふんは、ながいとかんじたところです。どうしてかというとながーい、おかあさんを、よんでも、あと5ふんいくよといってもなかなか、きてくれないからです。わたしは、このほんをよんで、5ふんはながいのかみじかいのか、わからないなどおもいました。けれど、たのしい5ふんや、うれしい5ふんは、みじかいとかんじます。おとなとこどものやっていることによって、5ふんのながさがかわるのかなとおもいます。このほんをよんで、おとなの5ふんとこどもの5ふんはちがうなあとおもいました。これからおかあさんと5ふんで、いろいろなことをしたいとおもいました。たとえば、わたしがしたいことは、5ふんで、たのしいことを、したいとおもいます。

柳田邦男先生からのメッセージ

唐澤さんは、大賞に選ばれた尾久宮前小学校二年生の古川諒さんと同じ絵本。『ながーい5分、

みじかい5分』を読んだんですね。

唐澤さんも、古川さんに負けないくらいいいじなことに気づいていますよ。とくにおもしろいなと感じたのは、5分の長さについて、おとなと子どもの違いについて気づいている点です。

絵本の、子どもがお母さんと呼んでも、お母さんは「あと5ふん（まっててね、すぐ）いくよ」と言うものの、なかなかきてくれない。「おとなの5ふんは、ながいとかんじた」というところに、注目しているのです。子どもの感性は鋭いですね。

そして、「たのしい5ふんや、うれしい5ふんは、みじかい」と感じることから、5分の長さはしていることによって変わるのかなと、考えを深めているんですね。1年生だって、しっかり考える力を持っているんだと感心しました。

5分で何ができるか、その5分が短く感じたか、お母さんとあなたがそれぞれにいろいろとやって紙に書いてみると、お母さんとあなたの同じところとちがうところがわかって、おもしろいと思います。